

令和元年度  
新潟県病虫害発生予察速報第8号  
(斑点米カメムシ類の発生状況)

1 斑点米カメムシ類主要加害種の発生状況 (7月上旬)

(1) 水田畦畔におけるカメムシの種類別発生量 (表1、2)

- ・県全体のアカスジカスミカメ (アカスジ) の確認地点率は**平年比やや高く**、確認虫数は平年並。  
アカヒゲホソミドリカスミカメ (アカヒゲ) の確認地点率は平年比やや低く、確認虫数は平年並。ただし、カスミカメムシ2種の発生量には地域差があり、**新潟、佐渡地域では2種とも確認地点率は平年比やや高～高**、確認虫数は平年比やや多～多。
- ・県全体でのオオトゲシラホシカメムシの確認地点率は平年比やや低く、すくい取り虫数は平年比やや少ない。

(2) メヒシバ等の出穂・結実したイネ科雑草が繁茂している畦畔ではアカヒゲ、アカスジの高密度の生息が確認されている。また、出穂したスズメノテッポウ等、雑草が多い一部ほ場で本田内にアカスジが多く生息している事例が見られる。

(3) 7月11日現在、北陸地方では向こう1か月間の気温、降水量はほぼ平年並に推移すると見られる。

表1 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率 (単位：%)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	<b>本年</b>	<b>42.9</b>	<b>76.9</b>	<b>42.9</b>	<b>30.8</b>	<b>41.7</b>	<b>88.9</b>	<b>52.0</b>
	前年(平30)	50.0	30.8	69.2	37.5	27.3	66.7	47.1
	平年	31.4	31.6	50.7	38.0	27.5	43.3	36.8
	平年比	並	高	並	並	やや高	高	やや高
アカヒゲホソミドリカスミカメ	<b>本年</b>	<b>35.7</b>	<b>76.9</b>	<b>28.6</b>	<b>23.1</b>	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	<b>38.7</b>
	前年(平30)	50.0	38.5	76.9	62.5	45.5	33.3	51.5
	平年	65.5	51.7	57.8	53.7	33.8	17.8	50.6
	平年比	低	やや高	低	低	並	やや高	やや低
オオトゲシラホシカメムシ	<b>本年</b>	<b>0.0</b>	<b>15.4</b>	<b>0.0</b>	<b>15.4</b>	<b>25.0</b>	<b>11.1</b>	<b>10.7</b>
	前年(平30)	14.3	0.0	23.1	25.0	18.2	0.0	13.2
	平年	12.3	9.4	14.0	29.2	32.5	3.7	16.1
	平年比	低	やや高	低	やや低	並	やや高	やや低

表2 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り虫数 (単位：頭/地点、20回振り)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	<b>本年</b>	<b>12.9</b>	<b>21.8</b>	<b>5.9</b>	<b>2.1</b>	<b>2.2</b>	<b>21.6</b>	<b>11.7</b>
	前年(平30)	1.1	8.0	13.8	10.8	2.8	8.0	7.6
	平年	6.5	7.3	18.6	7.1	7.0	6.2	9.4
	平年比	やや多	多	やや少	やや少	やや少	多	並
アカヒゲホソミドリカスミカメ	<b>本年</b>	<b>3.9</b>	<b>14.3</b>	<b>2.1</b>	<b>0.5</b>	<b>0.6</b>	<b>2.3</b>	<b>5.6</b>
	前年(平30)	5.7	4.1	15.1	5.5	2.3	0.4	6.5
	平年	4.0	5.4	7.9	7.3	3.5	1.1	5.5
	平年比	並	多	やや少	やや少	やや少	やや多	並
オオトゲシラホシカメムシ	<b>本年</b>	<b>0.0</b>	<b>0.2</b>	<b>0.0</b>	<b>0.2</b>	<b>0.3</b>	<b>0.1</b>	<b>0.1</b>
	前年(平30)	0.2	0.0	0.5	0.4	0.2	0.0	0.2
	平年	0.2	0.2	0.4	0.5	0.7	0.0	0.3
	平年比	少	並	やや少	やや少	やや少	やや多	やや少

※表1、2：畦畔すくい取り調査結果 (病虫害防除所巡回調査、75地点、7月4～9日)

■：確認地点率 (確認虫数) が平年比やや高～高 (やや多～多) となったもの

## 2 当面の対策と注意事項

コシヒカリの斑点米主要加害種はアカスジである。アカスジの多発年にはコシヒカリの斑点米による格落ち率も高くなる傾向がある（図参照）。本年は水田畦畔におけるアカスジの確認地点率が平年に比べ高く、斑点米の多発生が懸念されるため、コシヒカリをはじめとする中生品種や晩生品種においても適期の薬剤防除を徹底し、斑点米の発生防止につとめる。

### (1) 水田周辺の雑草管理

- ア 斑点米カメムシ類は、メヒシバ、イタリアンライグラス、エノコログサ等の出穂したイネ科植物に好んで寄生し、増殖するので、これらの雑草が出穂しない間隔で畦畔の草刈りを実施し、水田侵入前の発生量を抑制する。
- イ イネ科雑草が繁茂している畦畔は、速やかに草刈りを実施する。また、防除実施前に雑草が繁茂するようなら再度草刈りを行い、除草を徹底する。
- ウ 水稻が出穂した後も畦畔から水田への斑点米カメムシ類の侵入は続くため、イネ科雑草が出穂・結実しない間隔での除草を継続する。

### (2) 水田内雑草の管理

水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実、は、斑点米カメムシ類の水田への侵入・増殖を助長するので早めに除去する。特にアカスジは水田内にイヌホタルイが残存すると多発生しやすいので除去を徹底する。

### (3) 適期の薬剤防除の実施

- ア 現段階での水稻の出穂期予想は早生品種、コシヒカリとも平年並だが、今後の気象条件によって変動する可能性がある。出穂時期を的確に予測し、防除適期を逸しないよう注意する。
- イ 散布回数、時期は使用する防除薬剤の種類によって異なる。粉・液剤の1回散布の場合は出穂期3日後頃～10日後、2回散布の場合は出穂期の7～10日後と、さらにその7～10日後である（薬剤の種類に応じた散布回数の考え方は、平成31年度新潟県農作物病害虫雑草防除指針を参照）。
- ウ 粒剤の散布適期は出穂期～出穂期7日後である。水深3cm程度の浅水で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。散布日はできるだけ好天が予想される日を選び、多雨や低温、日照不足が予想される場合は散布を控える。
- エ 共同防除実施地区での極早生品種など、出穂期が共同防除実施日より10日以上早いと予想される場合は、防除実施前の加害が懸念されるので、共同防除の7日前頃に追加防除する。追加防除では共同防除とは異なる作用機構の薬剤を使用する。

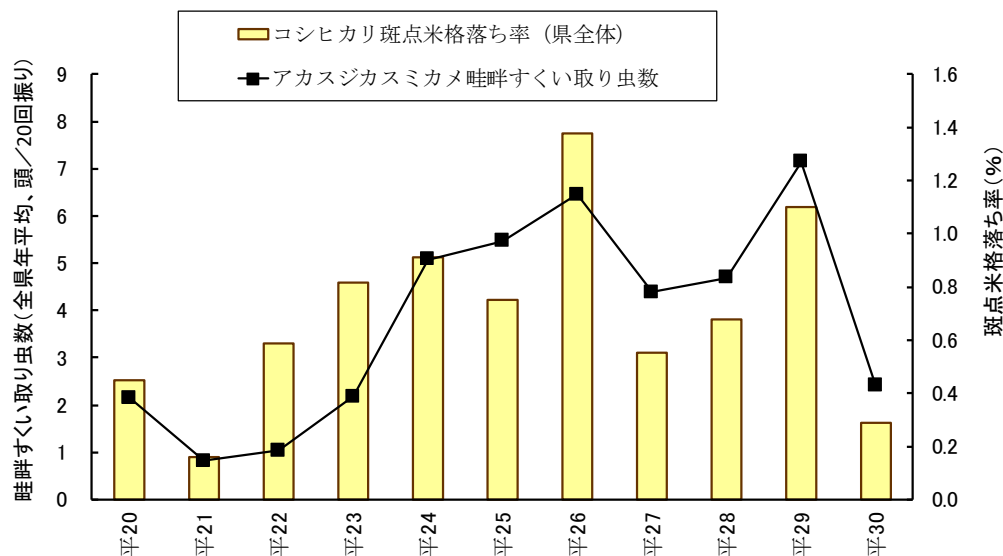


図 アカスジカメムシの畦畔すくい取り虫数とコシヒカリ斑点米格落ち率の年次推移